

国語 第5学年 いにしえの言葉に親しもう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある6月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるか」を問い、教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合う。古典の響きと感想の記録の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ア	ア 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。思考・判断・表現では、教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合う。交流や試行の前後を比べ、古典の響きと感想の記録を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。〔知識及び技能〕(3)ア	①「読むこと」において、教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合うという学習に取り組んでいる。(C(1)カ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○古典の言葉の響きと調子に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す古典の響きと感想の記録の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2 （本時は2時）	○教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合う。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	3	○古典の響きと感想の記録を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



本時の案

本時の目標：教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合うことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるか」 【めあて】古典の言葉の響きと調子について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・意味を聞いてから読むと調子も味わえる。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。全ての語の意味を覚えることだけを目標にする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合う。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・意味を聞いてから読むと調子も味わえる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	教師の読みと大意を手掛かりに響きを確かめる。知識・技能では、古典の大意を確かめながら音読し、言葉の響きや調子に親しんでいる。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①教科書で扱う古文などを声に出し、現代語との違いや感じたことを伝え合うという学習に取り組んでいる。(C(1)力) (本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 古典の響きと感想の記録を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】古典は大意を手掛かりに声に出すことで、言葉の調子や表現の特徴に親しめる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（古典の響きと感想の記録と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には古典の言葉の響きと調子を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に古典の響きと感想の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、全ての語の意味を覚えることだけを目標にすることである。教師の読みと大意を手掛かりに響きを確認する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

古典の響きと感想の記録

「声に出すと今の言葉と何が違って聞こえるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。教師の読みと大意を手掛かりに響きを確認するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重